

令和6年度 公社等経営評価シート
(対象期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日)

概 要	名 称	一般社団法人宮崎県酪農公社			所在地	都城市御池町無番地	
	電話番号	0986-33-1816			ホームページ	http://m-chikusan.jp	
	設立年月日	昭和43年8月12日	代表者	理事長	平島善範	県所管部・課	農政水産部畜産局 畜産振興課
	総出資額	160,580 千円		県出資額	80,000 千円	県出資比率	49.8%
	設立目的	県内における畜産農家の乳用育成牛預託に係る哺育、育成及び家畜の能力検定、乳用牛・肉用牛の育成・繁殖等を行うことにより、畜産の近代化を強力に推進するとともに、家畜の生産改良を促進し、もって当該地域の農業生産力の増強と農業者の経済的社会的地位の向上を図ることを目的とする。					
要	特記事項						

		内容	令和4年度	令和5年度	令和6年度
改革 工 程	①公社等のあり方 見直し	経営基盤の安定・強化 運営体制の強化・充実	(実績)乳用牛共同哺育・育成事業を実施し公共牧場として運営。	(実績)乳用牛共同哺育・育成事業を実施し公共牧場として運営。	(計画)乳用牛共同哺育・育成事業を実施し公共牧場として運営。
	②公 社 等 の 経 営 見 直 し	経営・事業 運営改善	次期経営改善計画策定 経営改善計画の確実な実行	(実績)令和6年度を目標とする経営改善計画に基づき、運営改善を実施。	(計画)令和6年度を目標とする経営改善計画に基づき、運営改善を実施。
		財務改善	単年度黒字化 累積欠損金の削減	(実績)預託サービスの向上と推進活動を図ったが、飼料や生産資材の価格高騰により、預託頭数の確保が難しく、単年度黒字を達成できなかった。	(実績)飼料や資材の高止まりの状況が続く中で、預託頭数の確保ができなかったことに加え、乳用牛部門の低成績牛の淘汰に伴う出荷乳量の減少等により、単年度黒字を達成できなかった。
		組織等適正 化	効率的な組織体制の構築 経営管理技術及び生産技術の向上	(実績)県外からの外部講師や、畜産試験場の研究員による指導を仰ぎ、技術向上を図った。	(計画)施設規模・頭数規模にあった人員配置・組織管理を行い、更なる効率化を図り、人材育成に努める。
	③県 と 公 社 等 の 関 係 見 直 し	人的支援見 直し	運営改善を図るための指導体制の維持	(実績)月に1回の実績検討会や四半期毎の経営改善チーム会議による経営改善指導を実施。	(計画)酪農公社の経営の自立化を図るために、経営改善チーム会議や実績検討会による継続的な経営改善指導を実施する。
		財政支出見 直し	運営補助金の見直し検討	見直し済み	見直し済み
要	④情報公開推進	ホームページでの情報公開の充実	(実績)ホームページにより、適宜情報公開を実施した。	(実績)ホームページにより、適宜情報公開を実施した。	(計画)ホームページでの情報公開の更なる充実を図る。

	(人)	令和5年度				令和6年度			
		合計	県職員	県退職者	左記以外の者	合計	県職員	県退職者	左記以外の者
人 的 支 援	役員数	11	2	0	9	11	2	0	9
	常 勤	1	0	0	1	1	0	0	1
	非常勤	10	2	0	8	10	2	0	8
	職員数	13	0	0	13	12	0	0	12
財 政 支 出 等	(千円)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	(千円)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	県委託料	0	0	0	県借入金残高	0	0	0	0
	県補助金	5,069	15,928	22,407	県の損失補償契約等に基づく債務残高	0	0	0	0
	県交付金・負担金・出資金	0	0	0	県職員人件費 (県支給分)	0	0	0	0
その他の県からの支援等		宮崎県酪農公社強化育成事業に係る県からの借入金120,000千円 (R5. 4. 3～R6. 3. 29)							

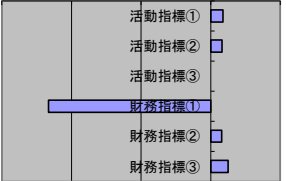
主 な 県 財 政 支 出 の 内 容	事業名		事業内容	令和5年度 決算額(千円)	令和6年度 予算額(千円)	種別
	①	宮崎県酪農公社運営強化対策事業	酪農公社施設整備等に係る起債償還額の一部助成	2,769	2,769	補助金
	②	乳用後継牛育成預託支援緊急対策事業	県内酪農家の物価高騰による影響緩和を図るため、酪農公社が実施する乳用後継牛育成預託事業の預託料の値上げ相当分に係る経費の一部助成	19,638	0	補助金
	③					
	④					
	⑤					

実施事業	①預託事業（農家からの乳用牛の哺育、育成預託） ②乳用素牛供給事業 ③生乳生産・販売事業 ④和牛子牛生産・販売事業 ⑤自給飼料生産事業						
活動指標	指標名	算式（単位）	令和5年度			令和6年度	令和7年度
			目標値	実績値	達成度(%)	目標値	目標値
	① 預託牛入牧延べ頭数	頭	255,500	224,243	87.6%	255,500	—
	② 年間生乳出荷数量	トン	1,000	818	81.7%	1,000	—
	③						—
指標の設定に関する留意事項		令和4年3月に策定した経営改善計画の数値を基に目標を設定。なお、令和7年度の目標値については、令和6年度に策定する次期経営改善計画の中で設定を行う。					

財務状況	正味財産増減計算書（千円）				貸借対照表（千円）			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度		令和3年度	令和4年度	令和5年度
	経常収益	443,308	459,504	407,841	資産	285,181	331,205	291,009
	経常費用	438,743	483,743	438,929	流動資産	114,137	156,153	142,888
	当期経常増減額	4,565	-24,239	-31,088	固定資産	171,044	175,052	148,121
	経常外収益	759	797	358	負債	413,602	489,365	484,888
	経常外費用	3,739	6,226	4,918	流動負債	366,271	426,825	429,146
	当期経常外増減額	-2,979	-5,429	-4,561	固定負債	47,332	62,540	55,742
	税引前当期一般正味財産増減額	1,585	-29,668	-35,648	正味財産	-128,421	-158,160	-193,879
	法人税・住民税及び事業税	71	71	71	指定正味財産	160,580	160,580	160,580
	当期一般正味財産増減額	1,514	-29,739	-35,719	（うち基本財産への充当額）	0	0	0
	一般正味財産期首残高	0	0	0	（うち特定資産への充当額）	0	0	0
	一般正味財産期末残高	1,514	-29,739	-35,719	一般正味財産	-289,001	-318,740	-354,459
	当期指定正味財産増減額	0	0	0	（うち基本財産への充当額）	0	0	0
	指定正味財産期首残高	0	0	0	（うち特定資産への充当額）	0	0	0
	指定正味財産期末残高	0	0	0				
	正味財産期末残高	1,514	-29,739	-35,719				

※千円未満を四捨五入して表示しているため、合計の金額と一致しない場合があります。

財務指標	指標名	算式（単位）	令和5年度			令和6年度	令和7年度
			目標値	実績値※	達成度(%)	目標値	目標値
	① 当期収支差額	当期純利益（千円）	3,064.4	-35,718.9	-1165.6%	8,725.2	—
	※ 令和5年度 実績値の算式	-35719					
	② 自己収入比率	自主事業収入／総支出額×100（%）	100.3	79.6	79.4%	101.5	—
	※ 令和5年度 実績値の算式	349,489千円／(355,634千円+83,295千円)×100					
③	管理費比率	管理費／総支出額×100（%）	25.0	19.0	124.0%	23.1	—
	※ 令和5年度 実績値の算式	83,295千円／(355,634千円+83,295千円)×100					
指標の設定に関する留意事項		当社の課題は累積欠損金の早期解消であり、令和4年3月に策定した第4次経営改善計画に基づき、当期収支差額の黒字化を目標としている。なお、令和7年度の目標値については、令和6年度に策定する次期経営改善計画の中で設定を行う。					
直近の県監査の状況							

総合評価	公社等 自己評価	前期からの基本方針を継続しながら、JA宮崎経済連との連携による乳用牛預託確保の取組や人材育成及び人材確保を図り、酪農家の負託に応え、生産基盤維持強化のため、預託事業のさらなる充実・強化を中心に、各個人・部門のレベルアップと部門間連携による効率化を目指す事業を展開した。 しかしながら、飼料や資材等の価格が高止りする中、乳用牛子牛セリ相場の低迷、またそれらに起因する預託控えの影響もあり、赤字での決算となった。 令和6年度についても畜産を取り巻く環境が大きく改善する見込みはなく、厳しい状況が続く見通しではあるが、預託頭数の増加等収益の確保や経費削減に努め、収益の改善に向け取り組んでいく。				県所管部課 二次評価	乳用牛や肉用牛部門において、繁殖成績が悪いなど低成績牛の淘汰を進めるとともに、コスト縮減による収益確保に取り組んだが、飼料や資材、燃料等の価格の高止まりの影響に加え、預託牛を十分に確保することができなかったこと等により、令和4年度に引き続き損失を計上した。 令和6年度については、単年度黒字の達成に向けて、預託牛の確保と経費縮減に取り組む必要がある。加えて、令和6年度は、令和4年3月に策定した第4次経営改善計画の終期に当たることから、新たに「あり方検討会」を設置し、不採算部門からの撤退も含めた抜本的な経営改善策について議論を行い、「運営改善チーム会議」での次期改善計画の策定につなげていく。			
		評価（A：良好、B：ほぼ良好、C：やや課題あり、D：課題多い）	改革工程	活動内容	財務内容		組織運営	評価（A：良好、B：ほぼ良好、C：やや課題あり、D：課題多い）	改革工程	活動内容
		B	B	C	B		B	B	C	B
	目標 達成度		-1500% -1000% -500% 0% 500% 				公社等改革 推進委員会 三次評価	活動内容については、飼料等価格の高止まりが公社や県内農家の経営に影響を及ぼし続ける中、いずれの指標も目標値を下回っているものの、関係機関と連携し改善に向けて取り組んだ点は評価できる。 財務内容については、管理費比率が目標を達成した点は評価できるが、経常赤字により債務超過額が増加している。 次期経営改善計画の策定に向けた議論を通じ、一層踏み込んだ経営改善策を検討していくことが求められる。		